

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 3月 27日

事業所名 放課後等デイサービス かける

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		・テーブルの配置など、その都度工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	7		・余剰の配置があり、満たしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1	・経営者の明確な意図がある為 ・手すりがある	私生活の中ではバリアがたくさんあります。そのバリアをどう超えていくのか、体の使い方、補助具の使い方を学んでいく事が大切です。またそれが、リハビリ効果もあると考えているため、バリアフリー化はしていません。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	・一人一人に徹底できていない。 ・イベントがあることには正解を開き改善点を共有している。今後の方向性が明確になっている。	職員の職務理解度の確認と向上をはかるための働きかけが必要だと考えます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		・保護者会を開いて、意思の反映をしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7	・外部評価は行っていない。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		・社協の開催する研修に参加している。	・今年度も実施いたします。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		・適切にモニタリングを行ない、また、連絡ツールを使って問題解決に努めている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		・児童の強化につながるよう話し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		・職員が各分野に分かれて活動を立案することで、固定化、偏りのない立案が出来ている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	・「細やかな支援」までできていない。 ・長期休暇明けの児童に対する声掛けや対応を工夫している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		・朝礼を行ない、確認しあっている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		・終礼を行なえていない。	・職員の勤務時間がバラバラなため、終礼を実施できません。その分、朝礼にて、昨日の報告を含めて情報の共有を行なっています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	・職員間で検証し、話し合っている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7		・基本活動を中心に支援を行なっている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		・児童の担当を決めており、モニタリング会議等に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		・毎日職員間で児童の学校終了の時間の把握、学校での様子をしっかりと共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2	医ケア児がいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	・今後研修に参加していきたい。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		・クッキング等、定期的に開いて、職員の子どもを中心に交流する機会を作っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1	・子ども支援部会に参加。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		・送迎時に、児童の様子をお伝えしている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2	・今後、取り入れていきたい。	・まず、職員がそのスキルを身に付けることが重要なので、開催できるような職員育成を行ないます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	・随時、保護者会を行なっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	・親子が酸が出来るイベントを企画し実践している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		・すぐに連絡を取り、周知している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	・1か月に1回、かける通信を発行。	
	35	個人情報に十分注意している	7			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		・本人の様子や保護者からの家での様子を聞き取り、適宜支援を行なっている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1	かける祭りに招待して、参加を頂いている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1	・連絡ツールを利用し、保護者にも避難訓練を行なうことを伝えている。	・避難訓練、防災の準備は、最優先事項に該当します。一度準備したら終わり、ではなく、随時見直しを行ない、より安心して過ごせる状況を作っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		・研修を行ない、職員の意識を高めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1	・身体拘束に関するマニュアルを作成している。保護者にも説明済み。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		・クッキング、お弁当では、アレルギーを考えメニューを考案している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2	事例集作成はされていなし。	・報告書が上がってきましたので、事例集を作成します。